

給湯加圧装置

(4)38-313 取扱説明書

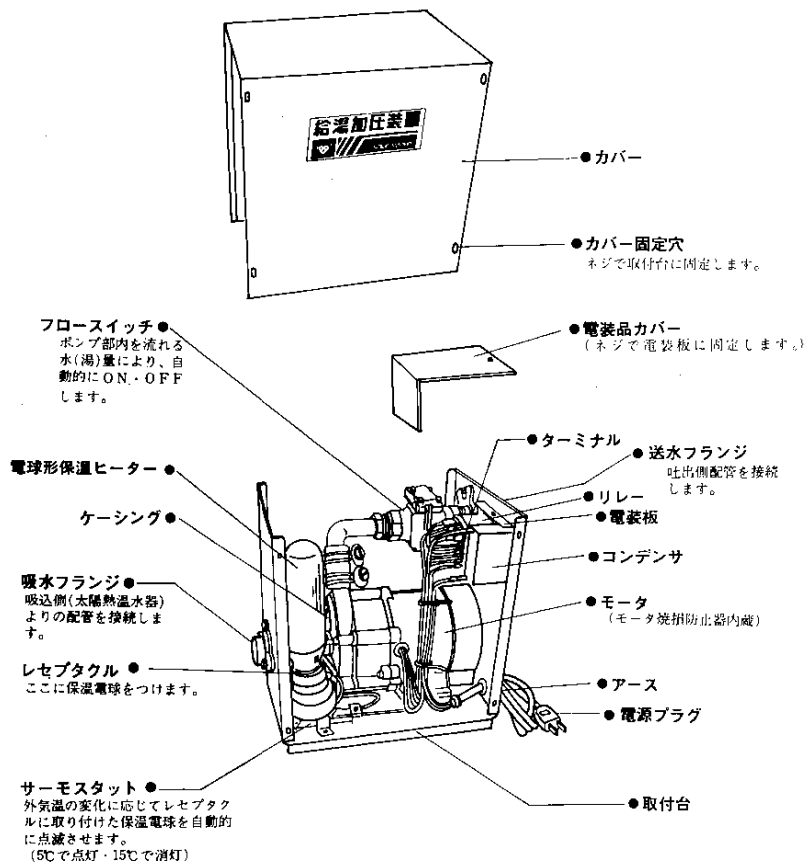


ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

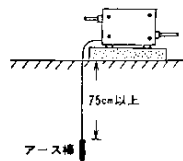
- 保証書(別添)はお求めの販売店からお受取りのうえ、内容をよくご確認いただき、後々のためにこの説明書とともに大切に保存してください。



solar system

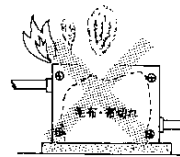


●万一の感電防止のために、アース、及び漏電しゃ断器を必ず取り付けてください。



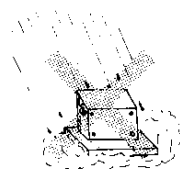
アースや漏電しゃ断器の取り付けは、法律で義務づけられております。

●冬期、凍結防止のためにカバー内のモータ部に毛布や布切れなどを絶対にかぶせないでください。



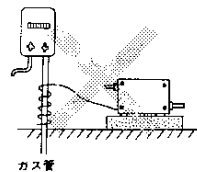
火災の原因になり、非常に危険です。

●雨水に耐える構造ですが、できるだけ屋内や屋側の雨水のかからない所に、また、湿気の少ない所に設置してください。



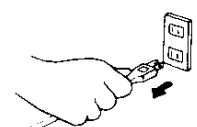
湿気の多い所や雨水のかかりやすい所に設置されますと、サビや漏電の原因になります。

●アース線は絶対にガス管に接続しないでください。



非常に危険であり、法律で禁じられております。

●修理・点検の際は必ず電源を切ってから行なってください。



感電の原因になります。

●清水以外の液体(油・化学薬品など)には絶対に使用しないでください。



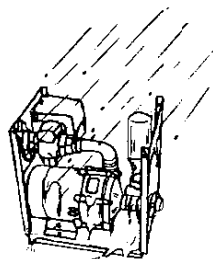
故障の原因になります。

●フロースイッチやモータ焼損防止器は絶対に分解しないでください。



内部の調整が狂うと作動しなくなったり、モータ焼損、火災、感電の原因になります。

●カバーをはずしたままで使用しないでください。



モータ内に水やほこりが入り、故障や漏電の原因になります。

●本機を長期間使用せず再運転される場合は、モータが回転するかどうか必ず確認してください。

モータが回転しない状態で電源を入れますと、モータ焼損防止器が作動します。

(このような場合には、「J・メ」カニカルシールが固着したら「…」の項をご参照ください。)

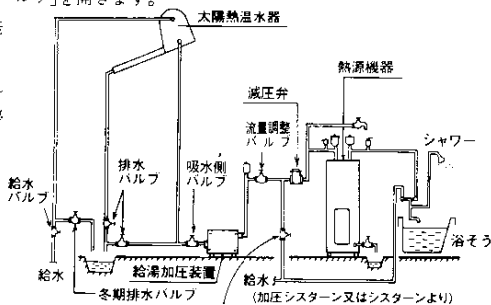
この給湯加圧装置は「フロースイッチ」を内蔵しておりますので、ジャロの開閉により自動運転します。

なお、試運転までは販売店(工事店)が責任を持って行ないますが、次の運転要領を知っておかれますと後役に立ちます。

① 太陽熱給湯システム自然循環型と組み合わせてご使用される場合

- ① 太陽熱温水器への「給水バルブ」を全開にして、太陽熱温水器を満水にします。
- ② 「排水バルブ」を開き、配管内の空気を抜いた後、元通りにバルブを閉じます。
- ③ 本機の「吸水側・送水(流量調整)のバルブ」を開きます。
- ④ 本機の電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ⑤ 全ての給湯せん(シャワー等)をそれぞれ2～3回開閉して本機が起動・停止することを確認します。

(熱源機器(石油温水ボイラー・電気温水器等)をご使用の場合は、本機から給湯せんに通じる熱源機器配管のバルブを開いてください。)



＜ご注意＞

●給湯せんからのお湯が出たり出なかったりする場合は、太陽熱温水器への給水量が減少していることが考えられますので、給湯せんをしぼってご使用ください。

(太陽熱温水器への給水量以上にお湯を出しますと、太陽熱温水器より空気を吸込み、本機が空気をかみ込む為、給湯加圧ができなくなります。)

※本機が空気をかみ込んだ場合、20～30秒間程度で正常運転するようになりますが、万一、正常運転にもどらない時は、一度給湯せんを閉じ、約20秒間待った後で給湯せんをいっぱい開いてください。

(これを2～3回くり返し行ってください。)

以上の動作を行っても正常に戻らない場合は、排水バルブ(上図ご参照)を開き、配管内の空気を抜いた後、元通り閉じてください。

② 貯湯式湯沸器等の加圧にご使用される場合は、配管内の空気を抜いた後①の③・④・⑤の手順で行なって下さい。

●シャワーご使用の場合は次の要領で湯温調節を行なってください。

① 「お湯側」のバルブを全開にし、本機を起動(起動しますと出湯量が急にふえます)させた後で給湯せんを徐々にしぼりながら「水側」のバルブを開き、湯温を調節してください。

注) シャワーご使用の場合、本機停止状態(お湯の流量が約2.5ℓ/min未満)の時に湯温を調整されますと、本機起動時にお湯の量が増加してシャワー湯温が急激に上がります。

※本機に内蔵のフロースイッチは約2.5ℓ/minで「ON」し、約1ℓ/minに減少しますと「OFF」します。

モータ保護装置について

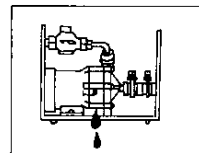
- モータ保護装置(モータ内蔵)はモータに過大な電流が流れたり、電圧に異常がある場合に作動し、自動的に電源を切りモータの焼損を防止する装置です。
 - モータ保護装置が作動した場合は、モータが回転しませんので電源を切り、約1時間程度経過した後、電源を入れてください。(モータ保護装置は自動的に復帰します。)
- ※モータ保護装置がたびたび作動し、モーターが回転しない場合は、電源プラグをコンセントより抜き、お求めの販売店にご連絡ください。

メカニカルシールについて

■メカニカルシールは消耗部品です。

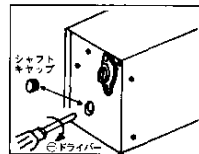
メカニカルシールはモータとポンプ間の軸封部の水漏れ防止部品です。メカニカルシールは消耗部品ですから長年使用されますと摩耗し、水漏れが発生します。(寿命は水質、使用時間等で異なります。)

※右図の位置より水漏れが生じたら販売店(工事店)に、メカニカルシールの交換をご依頼ください。



■万一メカニカルシールが固着したら…

本機を長時間使用せず再使用される場合など、メカニカルシールが固着してモータが回転しないことがあります。この場合は、電源を切りモータ後部のシャフトキャップをはずし、モータシャフトをマイナスドライバーで右方向(時計回り)に回して固着を解除してください。



※はずしたシャフトキャップは、必ず元通りに取り付けてください。

(はずしたままですとゴミや水などが入り、ベアリング故障の原因になります。)

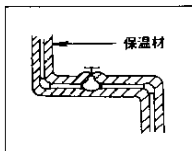
凍結防止について (暖かい地方でご使用のお客様も必ずお読みください)

冬期は暖かい地方でも思いがけない寒波のために本機や配管が凍結し、破損する場合がありますので、次の凍結防止対策を行なってください。

■配管の保温

露出部には必ず保温材やナショナル水道凍結防止器(別売、品番:DR2242他)を巻いて保温し、横引き配管は地中に埋めてください。

※埋める深さは、その土地の気温や地質によってきめてください。



■自動空気抜弁・バルブ等の保温

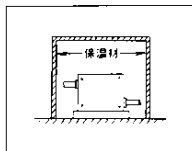
自動空気抜弁、各バルブとも十分な保温が必要です。

■本機の保温

コンクリート、ブロック等で小屋を造り、内側には保温材を取り付けて保温します。

＜ご注意＞

- 夏期には風通しができるようにしておいてください。
- 小屋は排水できるように、また、修理・点検できるスペースを設けておいてください。



■電球による保温

保温電球は本体に組込んであります。

保温電球はサーモスタットにより自動的に点滅します。

(5℃で点灯、15℃で消灯します。)

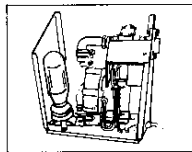
●保温電球について

保温電球は電球型保温ヒーター(例 松下電機産業㈱製 品番P-701G 40W)

110V用の街灯用電球または耐震電球をご使用ください。

(注) 一般白熱電球はできるだけ使用しないでください。

(モータの震動で電球の寿命が極端に短くなります。)



＜ご注意＞

●電球を使用しない場合は、必ずレセプタクルにキャップをかぶせておいてください。

●保温電球はご使用前に、正常に点灯するかどうかを家庭用のソケットで確認してください。

●保温電球使用区分

最低気温	使用電球
-10℃まで	40W
-20℃まで	100W

(サーモスタットの働きにより、周囲温度が5℃以上の時にはレセプタクルに取り付けても点灯しません。)

●街灯用電球、耐震電球は特殊電球ですので、お早目にご注文ください。

■水抜きによる凍結防止

特に寒い地方や夜間など、凍結する恐れがある場合には次の要領で水抜きを行なってください。

- ① 水道よりの「給水バルブ」を閉じます。
- ② 本機の「送水(流量調整)バルブ」を閉じます。
- ③ 「排水バルブ」及び「冬期排水バルブ」を開きます。

●水抜き後の再運転方法

- ① 「冬期排水バルブ」を閉じます。
- ② 水道よりの「給水バルブ」を開き、太陽熱温水器に満水します。
- ③ 排水管より水が出始めたら「排水バルブ」を閉じます。
- ④ 本機の「送水(流量調整)バルブ」を開きます。

アフターサービスについて

1. 保証書(別に添付してあります。)

保証書は販売店からお渡し致しますから、必ず「販売店名・購入日」等の記入をお確かめになり、保証書内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

保証期間—お求めの日から1年間です。

2. 保証期間中に修理を依頼されるとき

次の表に従って調べていただき、なお異常のあるときには、必ず電源プラグを抜いてからお求めの販売店にご連絡(又は、保証書を添えて修理を依頼して)ください。

保証書の記載内容により、販売店が修理致します。

＜連絡していただきたい内容＞

- ご住所・ご氏名・電話番号
- 製品名・品番・ご購入日(保証書をご覧ください。)
- 故障内容・異常の状況(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日

現象	原因	処置方法
給湯栓を開いてもポンプが起動しない。	停電している。	再通電するまで待つ。
	流量調整バルブが閉じている。	流量調整バルブを調整する。
	太陽熱温水器が空になっている。	給水バルブを開き太陽熱温水器が満水になるのを待つ。
	メカニカルシールの閉塞。	固着を解除する。「J」-メカニカルシールが固着したら…」の項をご参照ください。
	太陽熱温水器の給湯口と給湯栓の落差が2m以上ない。(流水量2.5ℓ/min以下)	太陽熱温水器の給湯口と給湯栓との落差を2m以上とする。(流水量2.5ℓ/min以上)
凍結している。	解凍を待つ。	
流量が足りない	流量調整バルブの絞りすぎ。	流量調整バルブを再調整する。
給湯栓を閉じてもポンプが運転する。	ポンプの送水側接手、パイプより水洩れしている。	水洩れを完全に止める。
	給湯管に空気だまりがある。	全ての給湯栓(シャワー等)をそれぞれ2~3回開閉する。
出湯水に空気が混入し、流量が変化する。	給水バルブが閉じている。又は全開していない。	給水バルブを全開する。
	水圧が低く太陽熱温水器の給水量が減少(不足)している。	給湯栓をしぼって使用する。
	出湯量が多すぎる。(熱源機器よりエアークラム)	流量調整バルブを調整する。(熱源機器よりのエアークラムをなくする)

3. 保証期間経過後、修理を依頼されるとき
お求めの販売店に、まずご相談ください。
修理により製品の機能が維持できる場合には、ご希望により有料修理致します。
4. 補修用性能部品の最低保有期間
当社はこの給湯加圧装置の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低7年間保有しております。性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。
5. 保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な点は
お求めの大阪ガスサービスショップ、又最寄りの大阪ガス支社、住設営業所にお問合せください。

仕 様

項目	品番	(4)38-313		
ポンプ 能力	形 式	ビューガル形・非自吸式		
	全 揚 程	m	5 7	
	揚 水 量	ℓ/min	10 10	
	押 込 圧	kgf/cm ²	2	
	温 水 温 度	℃	最高85	
電 源	電 圧	単 相 ・ 100V		
周 波 数	Hz	50	60	
電 動 機 形 式		コンデンサラン式単相誘導電動機		
消 費 電 力	W	81	100	
極 数 ・ 定 格 出 力		2 極 ・ 50 W		
口 径	吸 水 側	20A (K B)		
	送 水 側	20A (K B)		
外 形 寸 法 (幅×奥行×高さ)	mm	270×188×245		
製 品 重 量	kg	6.3		
軸 封 装 置		開放型セラミックメカニカルシール		
フ ロー ス イ ッ チ 標 準 動 作 流 量	ℓ/min	2.5(ON)		
	ℓ/min	1.0(OFF)		
電 動 機 保 護 装 置		サーマル式モータ焼損防止器(自動復帰式)		
電 源 コ ー ド 長 さ	m	1.7		
付 属 品		凍結予防用電球形保温ヒーター<本体組込>		

本社・支社所在地および電話番号表

本 社	社 大 阪 市 東 区 平 野 町 5-1	電 話 大 阪 06 (202) 2221	※541
南 北 支	社 大 阪 市 西 区 玉 出 東 2-9-43	電 話 大 阪 06 (632) 0001	※557
北 支	社 大 阪 市 淀 川 区 上 本 町 3-6-35	電 話 大 阪 06 (301) 1251	※592
神 戶 支	社 神 戶 市 住 吉 横 町 2-2-19	電 話 神 戶 0722 (30) 1131	※590
京 都 支	社 京 都 市 西 区 南 町 39-4	電 話 京 都 075 (71) 0361	※569
阪 神 支	社 西 宮 市 和 上 町 4-11	電 話 西 宮 0796 (26) 3101	※662
東 支	社 東 大 阪 市 輪 船 2-3-17	電 話 河 内 0729 (62) 1131	※578
阪 支	社 枚 方 市 西 田 宮 町 16-17	電 話 枚 方 0720 (41) 1251	※573
河 支	社 神 戶 市 中 央 区 相 模 町 5-13-10	電 話 神 戶 078 (376) 5231	※650
経 路 支	社 京 都 市 中 区 松 竹 九 津 南 道 11	電 話 京 都 075 (231) 8151	※604
高 松 支	社 高 松 市 学 園 北 2-4-1	電 話 高 松 0742 (44) 1111	※631
和 歌 山 支	社 和 歌 山 市 本 町 1-1-1	電 話 和 歌 山 0734 (31) 2481	※640
徳 島 支	社 徳 島 市 神 保 町 4-2	電 話 徳 島 0792 (85) 2221	※670
徳 島 支	社 徳 島 市 加 茂 町 東 津 29-1	電 話 加 茂 出 0794 (21) 1801	※675
鳥 取 支	社 鳥 取 市 三 島 町 6-57	電 話 鳥 取 0786 (3) 2211	※668
湖 南 支	社 津 市 津 市 追 分 町 学 苑 館 6-8-0	電 話 津 市 0775 (62) 5311	※525
徳 島 支	社 産 康 市 大 東 町 9-41	電 話 産 康 0749 (22) 3131	※522
徳 島 支	社 長 浜 市 長 浜 市 南 沢 町 3-4	電 話 長 浜 0746 (2) 7171	※526



大阪ガス住宅設備

大阪ガス住宅設備
大阪住設営業所 堺市664通町113-1 電話 堺 0722(27)1761~2 ※590